

**道徳の時間における
問題解決的な学習の工夫**


 広島県教育委員会豊かな心育成課

説明の流れ

- 1 はじめに
- 2 「主体的な学び」の視点から
～「考える道徳への転換に向けたワーキンググループの
取りまとめについて」(案)より～
- 3 問題解決的な学習について
～「小・中学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」より～
- 4 質の高い多様な指導方法より
～「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」
(報告)より～
- 5 実践例
- 6 おわりに

1 はじめに

**学習指導要領 第1章 総則
第1 教育課程編成の一般方針**

学校の教育活動を進めるに当たっては、各学校において、児童に生きる力をはぐくむことを目指し、創意工夫を生かした特色ある教育活動を展開する中で、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむとともに、**主体的に学習に取り組む態度を養い**、個性を生かす教育の充実に努めなければならない。

1 はじめに

**学習指導要領 第1章 総則
第4 指導計画の作成等に当たって配慮すべき事項**

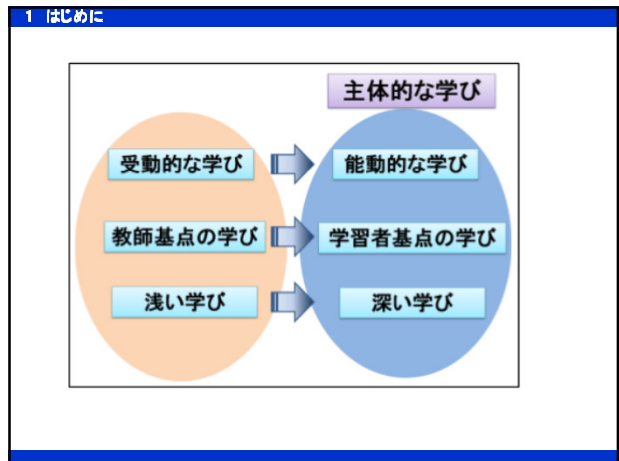
2(2) 各教科等の指導に当たっては、体験的な学習や基礎的・基本的な知識及び技能を活用した問題解決的な学習を重視するとともに、児童の興味・関心を生かし、自主的、自発的な学習が促されるよう工夫すること。

1 はじめに

**グローバル化する21世紀の社会を生き抜くための新しい教育モデルの構築
広島版「学びの変革」アクション・プラン**

グローバル化の進展により、求められる資力が加速的に増大し、社会経済システムから一人一人の自覚と主体的な学びが求められる。この変化に対応するため、本県は「主体的な学び」を核とした教育モデルの構築を推進する。このモデルは、知識・技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力、協働能力、課題解決力、学習態度、生活態度の育成を目指す。このモデルは、知識・技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力、協働能力、課題解決力、学習態度、生活態度の育成を目指す。

「主体的な学び」を核とした教育モデルの構築を推進する。このモデルは、知識・技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力、協働能力、課題解決力、学習態度、生活態度の育成を目指す。このモデルは、知識・技能の習得だけでなく、思考力、判断力、表現力、協働能力、課題解決力、学習態度、生活態度の育成を目指す。



2 「主体的な学び」の視点から

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループの取りまとめについて」(案) 平成28年8月16日

2 具体的な改善事項

(3) 学習・指導の改善充実や教育環境の充実等

ア 主体的・対話的で深い学びの実現

(1) 「深い学び」の視点

(2) 「対話的な学び」の視点

(3) 「主体的な学び」の視点

「教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ(第4回)配布資料から

2 「主体的な学び」の視点から

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループの取りまとめについて」(案) 平成28年8月16日

(3) 「主体的な学び」の視点

児童生徒が問題意識を持ち、自己を見つめ、道徳的価値を自分自身との関わりで捉え、自己の生き方について考える学習とすることや、各教科で学んだこと、体験したことから道徳的価値に関して考えたことや感じたことを統合させ、自ら道徳性を養う中で、自らを振り返って成長を実感したり、これからの課題や目標を見付けたりすることができるよう工夫することが求められる。

「教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ(第4回)配布資料から

2 「主体的な学び」の視点から

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループの取りまとめについて」(案) 平成28年8月16日

(3) 「主体的な学び」の視点

児童生徒の発達の段階等を考慮し、問題意識を持つことができるような身近な社会的課題を取り上げること、問題解決的な学習を通して一人一人が考えたことや感じたことを振り返る活動を取り入れること、伝統や文化に直接ふれることや、自然体験活動など美しいもの・気高いものなどに出会う機会を多様に設定し、そこから感じたことを通じて自分自身の生き方について考えるようにすることも重要である。

「教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ(第4回)配布資料から

3 問題解決的な学習について

「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」
第2節 道徳科の指導

(5) 問題解決的な学習、体験的な活動など多様な指導方法の工夫をする

学校生活を送る上では、例えば、相反する道徳的価値について、どちらか一方の選択を求められる場面も数多く存在する。その場合の多くは、答えは一つではなく正解は存在しない。こうした問題について、多面的・多角的に考察し、主体的に判断し、よりよく生きていくための資質・能力を養うためには、児童生徒が道徳的価値を自分との関わりで考えることができるような問題解決的な学習を取り入れることが有効である。

3 問題解決的な学習について

「小学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」

第3節 指導の配慮事項

5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

(1) 問題解決的な学習の工夫

道徳科における問題とは、道徳的価値に根差した問題であり、単なる日常生活の諸事象とは異なる。

3 問題解決的な学習について

「小学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」

第3節 指導の配慮事項

5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

道徳科における問題解決的な学習とは、ねらいとする道徳的諸価値について自己を見つめ、これからの生き方に生かしていくことを見通しながら、実現するための問題を見付け、どうしてそのような問題が生まれるのかを調べたり、他者の考え方や感じ方を確かめたりと物事を多面的・多角的に考えながら課題解決に向けて話し合うことである。

3 問題解決的な学習について

「**中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編**」

5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

(1) 問題解決的な学習の工夫

道徳科において問題解決的な学習を取り入れた場合には、その課題を自分との関わりや人間としての生き方との関わりで見つめたときに、自分にはどのようなよさがあるのか、どのような改善すべきことがあるのかなど、生徒一人一人が道徳上の課題に対する答えを導き出すことが大切である。そのためにも、授業では自分の気持ちや考えを発表するだけでなく、時間を確保してじっくりと自己を見つめ直して書くことなども有効であり、指導方法の工夫は不可欠である。

現代的な課題を道徳科の授業で取り上げる際には、問題解決的な学習を活用することができる。

3 問題解決的な学習について

「**小・中学学習指導要領解説 特別の教科 道徳編**」

5 問題解決的な学習など多様な方法を取り入れた指導

問題解決的な学習では教師と児童生徒、児童生徒相互の話し合いが十分にわたることが大切であり、教師の発問の仕方の工夫などが重要である。さらに、話し合いでは学習形態を工夫することもでき、一斉による学習だけでなく、ペアや少人数グループなどでの学習も有効である。

ただし議論する場面を設定すること、ペアや少人数グループなどでの学習を導入することが目的化してしまうことがないよう、ねらいに即して、取り入れられる手法が適切か否かをしっかり吟味する必要がある。

4 質の高い多様な指導方法より

「特別の教科 道徳」の指導方法・評価等について(報告)(概要)

(平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門委員会)

<道徳科の指導方法>

- 単なる話し合いや読み物の登場人物の心情の読み取りに偏ることなく道徳科の質的転換を図るためには、学校や児童生徒の実態に応じて、問題解決的な学習など質の高い多様な指導方法を展開することが必要。

<道徳科における評価の在り方>

【道徳科における評価の基本的な考え方】

- 児童生徒の成長を促すには、自分の成長を実感し、意欲の向上につなげていくものであり、教師の働きからすれば、教師が目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料。
- 道徳科の特質を踏まえれば、評価に当たって、
 - ・ 数値による評価ではなく、記述式とすること。
 - ・ 個々の内容項目ごとではなく、大きくはまとまりを踏まえた評価とすること。
 - ・ 他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がめいに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価(※)として行うこと。
 - ・ 学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身の関わりの中で求めているかといった点を重視すること。
 - ・ 道徳科の学習活動における児童生徒の具体的な取組状況を一定のまとまりの中で見取ることが求められる。

【道徳科の評価の方向性】

- 指導要領においては当面、一人一人の児童生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子について、発言や会話、作文・感想文やノートなどを通じて、
 - ・ 他者の考え方や立場に傾き、自省的に思考する中で、**一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか**

(※)個人内評価とは、児童生徒の成長を促すために、さらなる学習が望まれる場合等に活用するなど、児童生徒の発達段階に応じた評価として評価

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」(報告)

平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門委員会

4 質の高い多様な指導方法より

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」(報告)

平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門委員会

4 質の高い多様な指導方法

② 問題解決的な学習

児童生徒一人一人が生きる上で出会う様々な道徳的諸価値に関わる問題や課題を主体的に解決するために必要な資質・能力を養うことができる。

問題場面について児童生徒自身の考えの根拠を問う発問や、問題場面を実際の自分に当てはめて考えてみることを促す発問、問題場面における道徳的価値の意味を考えさせる発問などによって、道徳的価値を実現するための資質・能力を養うことができる。

道徳科における質の高い多様な指導方法について (イメージ)

	社会性材料の登場人物への感情移入の心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習
知
情
意
徳
行
習
性

4 質の高い多様な指導方法より

問題解決的な学習

導入

問題の発見や道徳的価値の想起など

- ・教材や日常生活から道徳的な問題をみつける。
- ・自分たちのこれまでの道徳的価値の捉え方を想起し、道徳的価値の本当の意味や意義への問いを持つ(原理・根拠・適用への問い)。

問題解決的な学習

展開

問題の探求(道徳的な問題状況の分析・解決策の構想など)

- ・道徳的な問題について、グループなどで話し合い、なぜ問題となっているのか、問題をよりよく解決するためにはどのような行動をとればよいかなどについて多面的・多角的に考え、議論を深める。
- ・グループでの話し合いなどを通して道徳的問題や道徳的価値について多面的・多角的に考え、議論を深める。
- ・道徳的な問題場面に対する解決策を構想し、多面的・多角的に検討する。

【教師の主な発問例】

- ・ここでは何が問題になっていますか。
- ・何と何で迷っていますか。
- ・なぜ、■ ■ (道徳的諸価値) は大切なのでしょうか。
- ・どうすれば■ ■ (道徳的諸価値) が実現できるのでしょうか。
- ・同じ場面に出会ったら自分ならどう行動するでしょう。
- ・なぜ、自分はそのように行動するのでしょうか。
- ・よりよい解決方法にはどのようなものが考えられるでしょう。

問題解決的な学習

探究のまとめ(解決策の選択や決定・諸価値の理解の深化・課題発見)

- ・問題を解決する上で大切にしたい道徳的価値について、なぜそれを大切にしたいかなどについて話し合い等を通じて考えを深める。
- ・問題場面に対する自分なりの解決策を選択・決定する中で、実現したい道徳的価値の意義や意味への理解を深める。
- ・考えた解決策を身近な問題に適用し、自分の考えを再考する。
- ・問題の探求を振り返って、新たな問いや自分の課題を導き出す。

問題解決的な学習

終末

まとめ

- ・教師による説話
- ・本時を振り返り、本時で学習したことを今度どのように生かすことができるかを考える。
- ・道徳的諸価値に関する根本的な問いに対し、自分なりの考えをまとめる。
- ・感想を聞き合ったり、ワークシートへ記入したりして、学習で気付いたこと、学んだことを振り返る。

実践例

廿日市市立宮園小学校 教諭 向井 知瑞子 教諭
平成28年度道徳教育 パワーアップフォーラム実践発表表より

②問題解決的な学習展開

資料名:「あれでよかったの？」

出典「道徳5年 きみがいちばんひかるとき」(光村図書)

題名:本当の親切とは? B 思いやり, 感謝

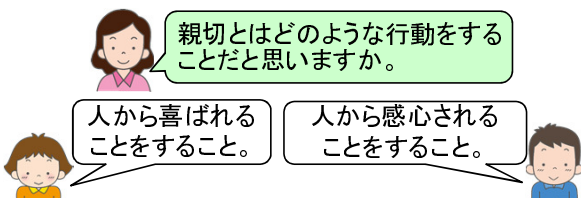
(ねらい)

電車の中でおじさんに席を譲り、実は迷惑だった、という経験をした光太さんが再び電車の中でおじさんに会った時に、自分が光太さんだったらどうするかを考えることを通して、誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする道徳的判断力を育てる。

導入

問題の発見や道徳的価値の想起など

1 ねらいとする道徳的価値について考える。



自分が思う「喜ばれる」「感心される」ことをすることが親切

5 実践例

展開(前半) 問題の探求

2 資料を読んで、自分ならどうするかを考え、話し合う。

席を譲る。
お年寄りだから。

光太さんはどうしたら
よいと思いますか。
それは、なぜですか。

席を譲る。
譲られた人が楽だから。

5 実践例

展開(前半) 問題の探求

2 資料を読んで、自分ならどうするかを考え、話し合う。

あなたが光太さんだったら、どうしますか。
それは、なぜですか。
その結果、どうなるとお思いますか。

声をかける。 席を譲る。

席を譲らない。 席を離れる。

5 実践例

展開(前半) 問題の探求

2 資料を読んで、自分ならどうするかを考え、話し合う。

授業のポイント

「どうするか。」ではなく、
「どのように考えて」の部分(理由)を大切にする。

5 実践例

展開(前半) 問題の探求

3 道徳的価値についての理解を深める。

授業のポイント

道徳的価値の理解を深めるための
発問を工夫する。

5 実践例

展開(前半) 問題の探求

3 道徳的価値についての理解を深める。

誰に対しても思いやりの心もち、相手の立場に立って親切にしようとする

①の場面で「おじいさんのことを思って席を譲った光太さん」と「声をかける」のは、どう違うのか。

声をかけるとどんな良いことがあるのか。

この場合の親切とはどういうことなのか。

5 実践例

展開(後半) 探求のまとめ

4 どうすればよいかを類題を通して話し合う。

授業のポイント

類題を通して、これからの自分の
生き方につなげる。

隣の席の友達が、算数の問題が解けなくてずっと考えています。休み時間になっても、まだ解けなくてずっと考えています。あなたならどうしますか。それはなぜですか。

5 実践例 **終末** まとめ

5 これからの自分の生き方につなげる。


類題 「何も言わずに教える。」

↓

生きていく中で親切は大切だから、人間は人それぞれちがうから、親切かおせっかいかを考えて相手の人に言う。

5 実践例 **終末** まとめ

6 導入で考えた道徳的価値について再び考える。

 親切とは、どのような行動をすることだと思いますか。

自分が思う「喜ばれる」「感心される」ことをすることが親切

↓

- 相手の気持ちを考えて、**相手**が喜んでくれそうなことをする。
- 相手**が思っていることを考えていろいろする。
- 相手に迷惑をかけずに、**相手**が喜ばれることをする。

相手の立場に立って考えてすることが親切

	×	読み物教材の登場人物への 自覚的学習が中心の学習	問題解決的な学習	道徳的行為に関する体験的な学習	×
指導方法の効果		・子どもたちが読み物教材の登場人物に対して自らの考えや意見を自由に発言し、道徳的価値の理解を促す学習方法として効果的。	・出典からの道徳的な問題に類似しよとする演習・能力を高める学習方法として有効。 ・授業内容や進度に合わせた問題解決の中で、新たな価値観を構築・醸成する可能性。 ・児童が主体的に学習に取り組む「問い」が生まれることにより価値観の転換が促される。	・心算と行為とを結び合わせることで、道徳的価値の理解を深めることができる。 ・様々な立場から問題を捉えることで、多面的・多角的な思考を促すことができる。	主 題 や ね ら い の 設 定 が 不 十 分 な る 生 活 場 景 の 扱 い
登場人物の心情的理解のみの指導		道徳的価値に関わる問題について多面的な思考と考	・類似する中で、多面的・多角的な思考へと発展し、道徳的価値の理解を自分自身との関わりで深めることが可能。 ・問題テーマの設定のもと、 ・多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。 ・上記「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・議論し、探究するプロセスが重視されているか。 ・といった検討や準備がなければ、単なる「話合い」の時間になりかねない。	・明確なテーマのもと ・心算と行為との関係の理解を深め、多面的・多角的な思考を促す問題場面が設定されているか。 ・上記問題場面の設定を可能とする教材が選択されているか。 ・といった検討や準備がなければ、主観的な十分な分析・準備が期待できかねない。	
評 価		・個人内評価を形式化して行う。 ・児童生活のいろいろな場面で、さらなる発展が促されることを期待したりするなど、児童生活の発展の課題に応じ進捗していく評価。 ・道徳的学習に際して、その学習活動を促す、観察や会話、作文やノートなどの記録、観察などを通して、例えば、 ○得意の考えや議論に傾き、自覚的に思考する中で、一面的な思考から多面的・多角的な思考へと発展しているか ○多面的・多角的な思考の中で、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているか ・といった点に留意する必要がある。 ・学習状況や道徳性に関する成長の様子を把握するための工夫が必要。 ・妥協性・柔軟性の確保のための継続的な観察が必要。			

4 質の高い多様な指導方法より

問題解決的な学習

【指導上の留意点】

明確なテーマの設定のもと

- 多面的・多角的な思考を促す「問い」が設定されているか。
- 上記の「問い」の設定を可能とする教材が選択されているか。
- 議論し、探究するプロセスが重視されているか。

といった検討や準備がなければ、単なる「話合い」の時間になりかねない。

6 おわりに

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」（報告）
平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

道徳的な問題には

- ①道徳的諸価値が実現されていないことに起因する問題
- ②道徳的諸価値について理解が不十分又は誤解していることから生じる問題
- ③道徳的諸価値のことは理解しているが、それを実現しようとする自分とそうでない自分との葛藤から生じる問題
- ④複数の道徳的価値の間の対立から生じる問題などがあり、これらの問題構造を踏まえた場面設定がなされることが求められる。

6 おわりに

「考える道徳への転換に向けたワーキンググループの取りまとめについて」（案） 平成28年8月16日

児童生徒同士で話し合う問題解決的な学習を行うに当たっては

そこで何らかの合意を形成することが目的ではなく、そうした学習を通して、道徳的価値について多面的・多角的に考え、自分のこととして考えることにつなげることが重要であることに留意する必要がある。

「教育課程部会 考える道徳への転換に向けたワーキンググループ（第4回）配布資料から

6 おわりに

「『特別の教科 道徳』の指導方法・評価等について」（報告）
平成28年7月22日 道徳教育に係る評価等の在り方に関する専門家会議

*これらは多様な指導方法の一例であり、指導方法は限定されるものではない。教員が学習指導要領の改訂の趣旨をしっかりと把握した上で、学校の実態、児童生徒の実態を踏まえ、授業の主題やねらいに応じた適切な指導方法を選択することが重要。

*それぞれの独立した「型」を示しているわけではない。それぞれ様々な展開が考えられ、例えば読み物教材を活用しつつ問題解決的な学習を取り入れるなど、それぞれの要素を組み合わせた指導を行うことも考えられる。



道徳の時間における 問題解決的な学習の工夫



広島県教育委員会豊かな心育成課